

# 平成30年度決算速報値 実質収支は16億円の黒字

財政課 ☎ 841・1311、FAX 841・3039

平成30年度一般会計の決算見込みがまとまりました。歳入では市税や地方交付税などが増加し、歳出では、総合文化芸術センター整備や災害関連などにより投資的経費は増加したものの、扶助費や公

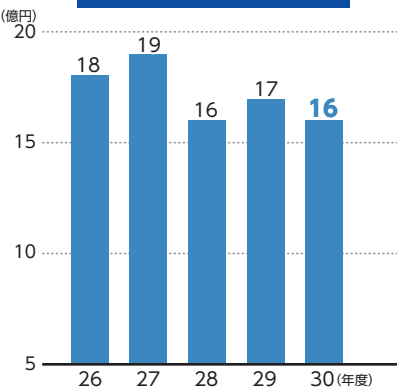
債費などの義務的経費は減少しました。自治体の決算を表す実質収支は16億円の黒字を計上しましたが、単年度収支では1億円の赤字となりました。

## ▼一般会計決算の状況

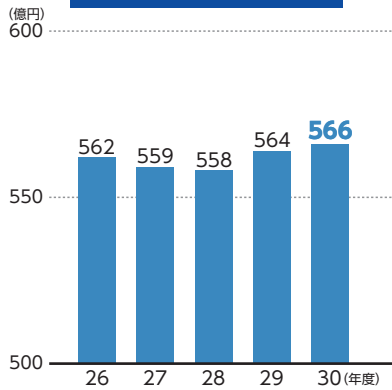
区 分	平成29年度	平成30年度
歳 入 額	1358億5500万円	1357億1000万円
歳 出 額	1341億5600万円	1334億1800万円
歳入歳出差引額 A	16億9900万円	22億9200万円
翌年度繰越額 B	2500万円	7億2600万円
<b>実質収支額 A - B</b>	<b>16億7400万円</b>	<b>15億6600万円</b>
<b>単年度収支額</b>	<b>5200万円</b>	<b>▲1億800万円</b>

※単年度収支額は前年度実質収支額との差額となります。

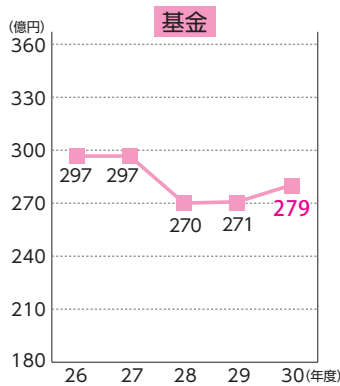
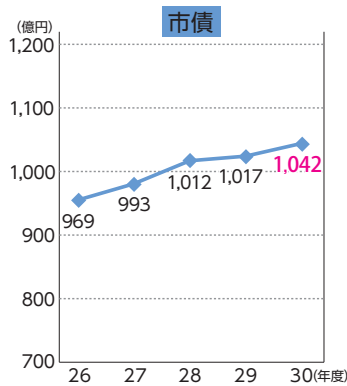
### 実質収支の推移



### 市税収入の推移

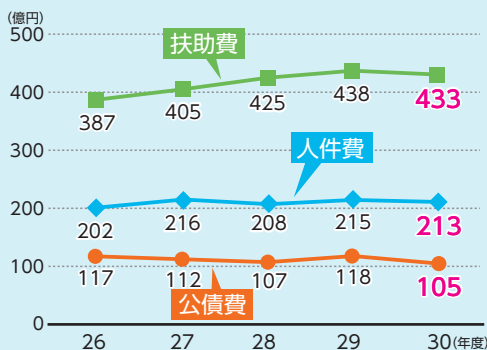


### 一般会計の市債・基金現在高の推移



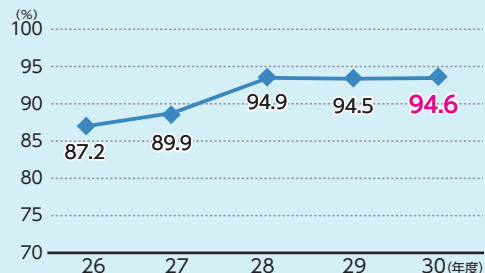
**市債残高は25億円の増加**  
市債とは、多額の経費が必要な建設事業の単年度の負担を軽減し、計画的な財政運営を行うために国や銀行等から借りるお金のことで、このほか、地方交付税の不足分を補うための臨時財政対策債という借入金があります。  
平成30年度末の市債現在高は、4億5千万円の繰上償還を行ったものの、前年度に比べて25億円の増加となりました。また、基金現在高は8億円の増加となりました。

### 一般会計の人員費・扶助費・公債費の推移



### 経常収支比率の推移

財政の弾力性を示す財政指標。数値が低くなるほど自由に使えるお金が増えることを示しています。



※決算の詳細は広報ひらかた10月号でお知らせします。